

はじめにお読みください

X-MON BOX CLUSTER

(QuadBeagle ZG+用)

株式会社エクストランス

LAN ケーブルの挿入場所について(クラスタ版)

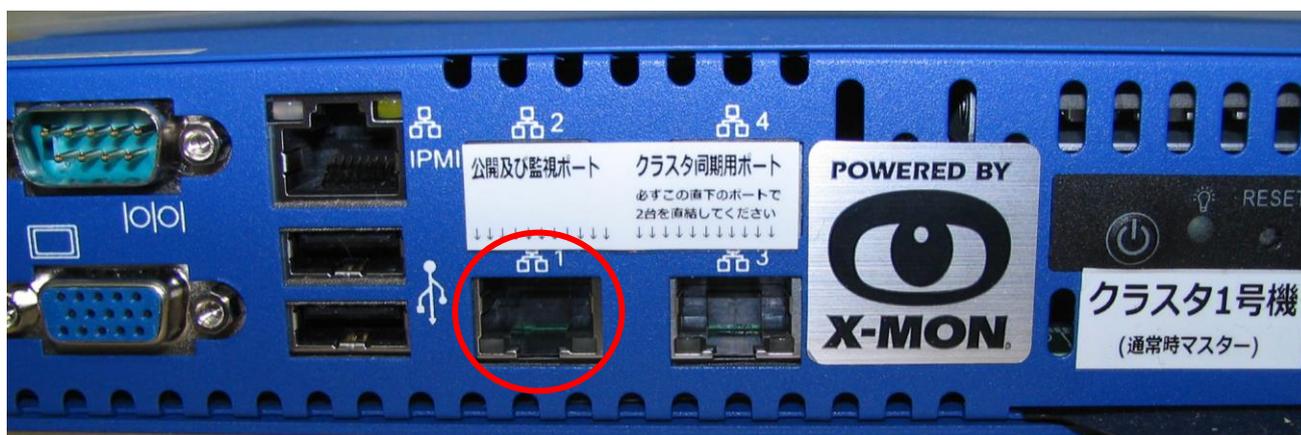
(1) クラスターの監視およびデータ同期用ポート

クラスタ版では双方の死活監視とデータ同期のため、2台のサーバを直結する必要があります。電源投入前に下記の赤い円のポートに LAN ケーブルを挿入し、2台のサーバ同士を接続します。

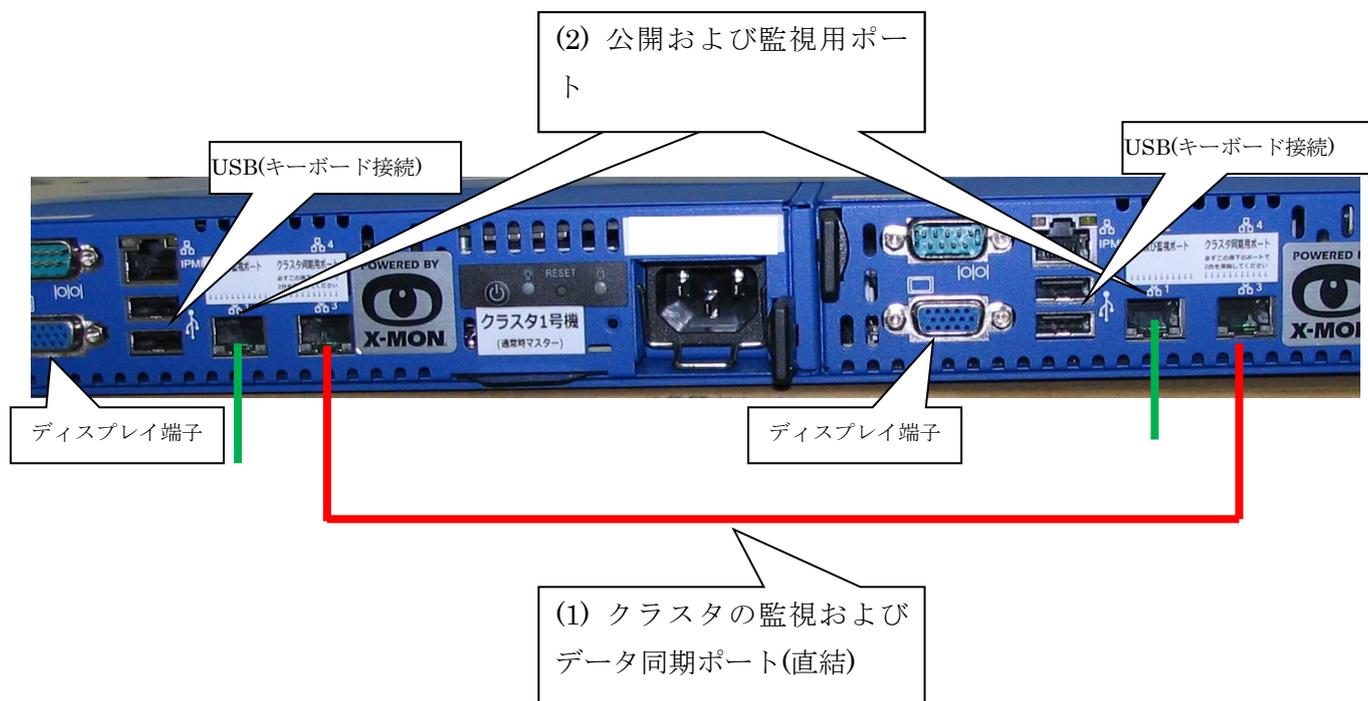


(2) 公開および監視用ポート

下記の赤い円のポートに LAN ケーブルを挿入します。こちらはお客様の環境（監視対象ホストおよびクライアント端末）への接続となります。



接続イメージは以下のとおりです。



電源ケーブルの挿入箇所と起動・停止について

電源ケーブル挿入箇所、電源ボタン、電源ランプは以下の通りです。



(1) 電源投入方法

電源ケーブル、LAN ケーブル挿入後、上記図の電源ボタンを押します。電源が入ると上記図の「電源ランプ」が青色で点灯します。なお、電源ランプ右のランプは HDD のアクセスランプとなります。

必ず 3 ページ記載の「クラスタの監視およびデータ同期ポート」で 2 台を直結してから電源を入れてください。

電源を入れたのち、PC 端末のブラウザにて管理画面 URL にアクセスすると、ログイン ID とパスワードの入力画面となります。ログイン ID、パスワードを入力し、「ログイン」ボタンを押すと X-MON の Web 管理画面にアクセスすることができます。

Login ID	<input type="text"/>
Password	<input type="password"/>
<input type="button" value="ログイン"/>	

【電源投入のタイミングについて】

クラスタ版ではマスターからスレーブにデータ同期します。通常時、1号機がマスターとなるため、1号機を優先的に起動させる必要があります。可能であれば**1号機を先に電源投入**するようお願いします。

(2) シャットダウン方法

下記のコマンドで x-mon サーバの停止を行います。

```
# shutdown -h now
```

停止は X-MON 管理画面上または電源ランプでご確認ください。

この際、必ず**2号機を先に停止**するようお願いします。

クラスタの動作概要

(1) 命名について

「クラスタ 1 号機」というラベルが貼付されている機器を「1 号機」とします。X-MON 管理画面上でも死活監視しており、ホスト名は「xmon-cl1」となります。

「クラスタ 2 号機」というラベルが貼付されている機器を「2 号機」とします。X-MON 管理画面上でも死活監視しており、ホスト名は「xmon-cl2」となります。

(2) 正常時の動作について

X-MON クラスタ版はアクティブ・スタンバイ構成となります。

2 台とも正常に稼働している場合、1 号機がマスターとなり、X-MON の動作に必要な各サービスが 1 号機で立ち上がります。その際 2 号機はスレーブとなり、2 号機ではサービスは立ち上がりません。また、マスターに共有 IP アドレスが割り当てられるため、どちらがマスターになっても同じ URL で X-MON の Web 管理画面へ接続することができます。

(3) マスターノードの確認方法

X-MON 上に「X-MON」というホストを登録済みです。このホストの監視サービス「Master_Node」の「ステータス情報」欄へマスターノードのホスト名を出力しています。

「Master_Node」サービスは 1 分間隔で実行していますので、情報の反映に最大 1 分かかる場合があります



The screenshot shows the X-MON management interface. At the top, there is a header with the X-MON logo and a user login status: 「管理者がログインしています。(2012/08/25 17:05:42)」。 Below the header, there is a section titled 「サービス一覧表示」. A search bar for host names is present. The main content is a table with columns: Host Name, Service Name, Status, Last Check Time, Elapsed Time, Test Count, and Status Information. The table lists services for X-MON, xmon-cl1, and xmon-cl2. A callout box points to the 'Master node: xmon-cl1' field in the status information for the 'Maser_Node' service.

ホスト名	サービス名	状態	最終チェック時刻	経過時間	試行回数	ステータス情報
X-MON (X-MON)	Maser_Node	正常(OK)	2012-08-25 17:04:55	0日と00時間10分47秒	1/3	Master node: xmon-cl1
	PING	正常(OK)	2012-08-25 17:01:51	3日と01時間00分49秒	1/3	PING OK - Packet loss = 0% RTA = 0.03 ms
xmon-cl1 (xmon-cl1)	DRBD_DISK	正常(OK)	2012-08-25 17:03:10	0日と19時間32分09秒	1/3	DRBD OK: Device 0 Connected UpToDate
	PING	正常(OK)	2012-08-25 17:05:10	0日と19時間49分37秒	1/3	PING OK - Packet loss = 0% RTA = 0.12 ms
xmon-cl2 (xmon-cl2)	DRBD_DISK	正常(OK)	2012-08-25 17:03:20	0日と19時間32分03秒	1/3	DRBD OK: Device 0 Connected UpToDate
	PING	正常(OK)	2012-08-25 17:05:20	0日と19時間47分57秒	1/3	PING OK - Packet loss = 0% RTA = 0.02 ms

(4) 1 号機停止時の動作について

1 号機が停止してしまった場合、2 号機で X-MON の動作に必要な各サービスが起動します（この動作をフェイルオーバーと呼びます）。

(5) 1号機停止後、1号機が復旧した際の動作について

1号機が停止して2号機へフェイルオーバー後、1号機が復旧した場合も、継続して2号機でX-MONの動作に必要なサービスが稼働します（自動フェイルバックは無効です）。

(6) データ同期とミラーディスクの監視について

X-MONの動作に必要なデータはマスターからスレーブに同期されています。このため、フェイルオーバーしても引き続き同じ情報でX-MONが稼働します。

X-MON上に自身の死活監視として「xmon-cl1」および「xmon-cl2」というホストを登録済みです。これらのホストの「DRBD_DISK」という監視サービスの状態が「OK」であればミラーディスクの状態が正常であり、同期は成功しています。